



## システム管理コマンド

---

- [ap-type](#) (2 ページ)
- [archive](#) (3 ページ)
- [copy](#) (4 ページ)
- [delete](#) (5 ページ)
- [disable](#) (6 ページ)
- [enable](#) (7 ページ)
- [exec-timeout](#) (8 ページ)
- [logging](#) (9 ページ)
- [more](#) (10 ページ)
- [reload](#) (11 ページ)
- [terminal](#) (12 ページ)

## ap-type

AP に AP タイプを設定するには、**ap-type** コマンドを使用します。

**ap-type** {**capwap** |**mobility-express** *word*}

構文の説明	<p><b>capwap</b> AP を CAPWAP AP タイプとして有効にします。</p> <p><b>mobility-express</b> AP を Mobility Express AP タイプとして有効にします。</p> <p><i>word</i> TFTP 転送コマンドの詳細を次の形式で入力します。 tftp://&lt;tftp-server-ip-address&gt;/&lt;filename with path from root&gt;</p>
コマンドモード	Privileged EXEC (#)
コマンド履歴	<p>リリース 変更内容</p> <p>8.1.111.0 このコマンドが導入されました。</p>

### 例

次に、AP タイプを CAPWAP に設定する例を示します。

```
cisco-wave2-ap# ap-type capwap
```

# archive

AP イメージをダウンロードするには、**archive** コマンドを使用します。

**archive download-sw** {/no-reload |/reload [**capwap** *word*]}

構文の説明	<b>download-sw</b> ソフトウェア ダウンロード コマンド
	<b>/no-reload</b> イメージのロード後にリロードしない
	<b>/reload</b> イメージのロード後にリロードする
	<b>capwap</b> イメージを Cisco WLC からダウンロードする
	<i>word</i> <b>ap image type ap3g3/ap1g4</b> フォーマットでイメージの詳細を入力します。
コマンドモード	Privileged EXEC (#)
コマンド履歴	リリース 変更内容 8.1.111.0 このコマンドが導入されました。

# copy

ファイルをコピーするには、**copy** コマンドを使用します。

```
copy {cores filename [scp: scp-url | tftp: tftp-url] | flash filename [scp: scp-url | tftp: tftp-url] | support-bundle [scp: scp-url | tftp: tftp-url] | syslogs [filename {scp: scp-url | tftp: tftp-url} | scp: scp-url | tftp: tftp-url] }
```

構文の説明	<b>cores</b>	コア ファイルにアクションを適用する
	<i>filename</i>	ファイルの名前
	<b>scp:</b>	SCP プロトコルを使用する
	<i>scp-url</i>	SCP URL は、次の形式で入力する： username@A.B.C.D:[dir]/filename
	<b>tftp:</b>	TFTP プロトコルを使用する
	<i>tftp-url</i>	TFTP URL は、次の形式で入力する： A.B.C.D[/dir]/filename
	<b>flash</b>	フラッシュ ファイルにアクションを適用する
	<b>support-bundle</b>	サポート バンドルをサーバにコピーする
	<b>syslogs</b>	syslog ファイルにアクションを適用する

コマンドモード Privileged EXEC (#)

コマンド履歴 リリー 変更内容  
ス

8.1.111.0 このコマンドが導入されました。

# delete

ファイルを削除するには、**delete** コマンドを使用します。

```
delete{/force | /recursive | /rf } cores filename
```

## 構文の説明

**/force** 強制削除

**/recursive** 再帰的削除

**/rf** 再帰的な強制削除

**cores** コア ファイルにアクションを適用する

*filename* 削除するファイル名

## コマンドモード

Privileged EXEC (#)

## コマンド履歴

リリー 変更内容  
ス

8.1.111.0 このコマンドが導入されました。

## 例

次に、ファイルを削除する例を示します。

```
cisco-wave2-ap# delete /rf cores file-name
```

# disable

特権コマンドをオフにするには、**disable** コマンドを使用します。

## **disable**

コマンドモード	Privileged EXEC (#)
コマンド履歴	リリース 変更内容 8.1.111.0 このコマンドが導入されました。

## 例

次に、特権コマンドをオフにする例を示します。

```
cisco-wave2-ap# disable
```

# enable

特権コマンドをオンにするには、**enable** コマンドを使用します。

## enable

---

### コマンドモード

User EXEC (>)

---

### コマンド履歴

---

リリース 変更内容  
ス

---

8.1.111.0 このコマンドが導入されました。

---

## 例

次に、特権コマンドをオンにする例を示します。

```
cisco-wave2-ap> enable
```

# exec-timeout

exec-timeout を設定するには、**exec-timeout** コマンドを使用します。

**exec-timeout** *timeout-value*

---

## 構文の説明

*timeout-value* タイムアウト値。有効な値は0～2147483647

---

---

## コマンドモード

Privileged EXEC (#)

---

---

## コマンド履歴

リリー 変更内容  
ス

---

8.1.111.0 このコマンドが導入されました。

---

## 例

次に、exec-timeout を 20 秒に設定する例を示します。

```
cisco-wave2-ap# exec-timeout 20
```



# logging

コマンドのログを作成するには、**logging** コマンドを使用します。

```
logging {console [disable] | host {clear | disable | enable}}
```

## 構文の説明

---

**console** コンソール ロギング

---

**host** syslog サーバを設定する

---

**disable** syslog ホストのロギングを無効にする

---

**enable** syslog サーバを有効にする

---

**clear** syslog サーバ IP をクリアする

---

## コマンドモード

Privileged EXEC (#)

## コマンド履歴

---

リリー 変更内容  
ス

---

8.1.111.0 このコマンドが導入されました。

---

## 例

次に、コンソール ロギングを有効にする例を示します。

```
cisco-wave2-ap# logging console
```

## more

ファイルを表示するには、**more** コマンドを使用します。

**more** {**flash** | **syslog**} *file-name*

---

### 構文の説明

---

**flash** フラッシュ ファイルにアクションを適用する

---

**syslog** syslog ファイルにアクションを適用する

---

*name* ファイル名

---

---

### コマンドモード

Privileged EXEC (#)

---

### コマンド履歴

---

リリース 変更内容  
ス

---

8.1.111.0 このコマンドが導入されました。

---

### 例

次に、**test-log** という名前の **syslog** ファイルを表示する例を示します。

```
cisco-wave2-ap# more syslog test-log
```

# reload

アクセスポイントを停止するには、または再起動を実行するには、**reload** コマンドを使用します。

**reload** [{**at** *hours minutes day-of-month year* [**cancel** [**in** *minutes* [**reason** *reason-string*]}]

## 構文の説明

**at** 特定の日時に AP をリロードする

このキーワードは、時間、分、日付、月、年をパラメータとして取る。有効な値は次のとおり：

- *hour* : 0 ~ 23
- *minutes* : 0 ~ 59
- *day-of-the-month* : 1 ~ 31
- *month* : 1 ~ 12
- *year* : 2015 ~ 2099

**cancel** 中断しているリロードをキャンセルする

**in** 一定の間隔後にリロードする。この時間は分で指定する。有効な値は 1 ~ 1440分

**reason** リロードの理由を指定する文字列

## コマンドモード

Privileged EXEC (#)

## コマンド履歴

リリー 変更内容  
ス

8.1.111.0 このコマンドが導入されました。

## 例

次に、10 分後に AP をリロードする例を示します。

```
cisco-wave2-ap# reload in 10
```

# terminal

ターミナルパラメータを設定するには、**terminal** コマンドを使用します。

**terminal** {**length** |**monitor** [**disable** ]|**type** *word* |**width** *no-of-characters*}

## 構文の説明

**length** 画面上の行数を指定する。有効な値は 0 ～ 512。出力を一時停止しない場合は 0 を入力する

**monitor** デバッグの出力先を現在のターミナル回線に指定する。モニタリングを有効にするには Enter キーを押す。モニタリングを無効にするには、キーワード **disable** を入力する

**type** ターミナルのタイプを指定する

**width** ディスプレイ ターミナルの幅を指定する。有効な値は 0 ～ 132

## コマンドモード

Privileged EXEC (#)

## コマンド履歴

リリー 変更内容  
ス

8.1.111.0 このコマンドが導入されました。

## 例

次に、ターミナルの行数を 50 に設定する例を示します。

```
cisco-wave2-ap# terminal length 50
```